

## 起草委員による検討の概要

### 1. 経緯等

V. ばく露状況「3. ハザードのばく露量について」に記載の非定型 BSE の発生頻度に基づく年数については、2016 年 8 月評価書で引用の発生頻度を参考として算出する予定としていたが、非定型 BSE の発生状況等を考慮し、再度、起草委員において記載内容を検討することについて、第 139 回プリオン専門調査会において座長より提案。

### 2. 評価書（案）該当箇所

#### V. ばく露状況

##### 3. ハザードのばく露量について

前述の情報を踏まえても、ハザードに係る具体的な流通量や喫食量を推定することは困難である。仮に最悪のシナリオを想定した場合、我が国における非定型 BSE (L 型) の発生頻度 (2 歳以上の牛 100 万頭当たり 0.07 頭/年) を考慮すれば、概ね●年間に 1 頭の割合で非定型 BSE 感染牛が発生することとなる。さらにこの感染牛がと畜検査で見逃された場合に、加工処理等の影響を考慮しない場合の最大量として当該感染牛 1 頭に由来する DRG 全量 (約 30g) がフードチェーンに供給される可能性がある。

### 3. 議論の要点

- ・「我が国における非定型 BSE 発生頻度 (2 歳以上の牛 100 万頭当たり 0.07 頭/年)」については、2014 年に EFSA が実施した手法を用いて、2016 年 8 月評価時に算出したものであり、普遍的な値ではないことに留意が必要。
- ・世界における非定型 BSE の発生状況から、その頻度は極めて低いものの、現在も散発的な発生が確認されている状況。
- ・近年、EFSA が発行している TSE レポートでは、過去 10 年間の時系列分析の結果から、定型 BSE についてはその発生状況に有意な減少傾向が認められるものの、2 つの非定型 BSE の発生について有意な傾向は認められないとしており、今後も発生しうることに留意が必要。

以上を踏まえて、下線部の記載については、現状をより正しく理解することが可能となる表現に修正を行うこととした。(資料 1 参照)